授業科目	＊継続支援実習					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	必修	開講年次	3	開講時期	後期
担当教員	髙橋　甲枝、原　頼子、中原　智美、財津　倫子						
授業概要	入院前から患者の退院後の生活を見据え、他職種と連携を図りながら調整を行う患者支援システムの実際を体験し、患者・家族の自己決定支援と切れ目のない治療・看護の継続性について学びます。 また、継続治療の場をとおして、多くの専門職との協働のあり方や、チーム医療における看護師の役割を学びます。						
授業形態	実習				授業方法	実習、カンファレンス、グループワーク、発表	

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	１．外来で治療を受けている人々の特徴と外来診療部門の役割を理解できる。 １）継続治療の必要性について述べることができる（DP2-1、3-1、3-2、4-1.2.3）。 ２）外来で治療を受けている患者・家族の生活について述べることができる（DP2-1）。 ３）外来と他部門との連携について述べることができる（DP2-1、3-1、3-2、4-1.2.3）。 ２．患者支援システムを知り、外来から始めるケアプランの実際について理解できる。 １）退院後の生活を見据えた調整の実際を述べることができる（DP2-1、3-1、3-2、4-1.2.3）。 ２）退院や転院、治療継続のための患者や家族の抱える問題について説明できる（DP2-1）。 ３）今後の療養生活について自己決定を支援するためにどのような看護が提供されているかを説明できる（DP2-1、3-1、3-2、4-1.2.3）。 ４）退院調整支援に必要とされる社会資源について述べることができる（DP2-1、3-1、3-2、4-1.2.3）。 ３．継続支援の実際を知り、継続看護や他職種連携の実際が理解できる。 １）保健・医療・福祉チームのなかでの看護師の役割（連携）について述べることができる（DP2-1、3-1、3-2、4-1.2.3）。 ２）地域連携ネットワークについて述べることができる（DP2-1、3-1、3-2、4-1.2.3）。 ３）関連する多職種の人々との協働のあり方について述べることができる（DP2-1、3-1、3-2、4-1.2.3）。
理想的レベル	3部門での学びを通して、継続支援実習の必要性とこれから学ぶ各論実習との繋がりについて自己の考えを述べることができる

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	80%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	20%	
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU31320J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）

＊継続支援実習

これまでに学んだ各領域の概論、方法論を想起し、チーム医療や継続看護について復習を行いましょう	0

授業計画	
第１回	継続支援実習は、各論実習の前に行う１週間の一斉実習である。 各施設における ①患者支援システム部門、②外来診療部門、③外来治療部門のオリエンテーションをもとに日々の学習目的、行動計画を立案し、各部門の実習に臨む。 最終日に各施設での学びについて発表を行い、他施設の内容をもとに学びを深める。 詳細は看護学実習要項を参照すること。
テキスト	各領域の看護学概論、方法論などで使用したテキストや資料
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	各領域の看護学概論、方法論などで使用したテキストや資料 チーム医療や継続看護に関する図書
課題に対するフィードバックの方法	毎日のカンファレンスにてコメントをします 最終日の発表時に全体の傾向について解説を行います。
学生へのメッセージ・コメント	オリエンテーションにて病院および各部門の説明を受けます。 分からなかったことは自分で調べて、実習に臨みましょう。 実習中は健康管理に十分に気をつけるようにしましょう。